

学科	理容科	担当教員	宗像		
科目名	関係法規・制度	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	・理容師法・美容師法について理解する。 ・理容師・美容師として業を行う際に関係のある代表的な12の法律について理解する。				
授業回	学習内容			備 考	
1	・施設（理容所・美容所）に関する規定 ・理容所・美容所の開設				
2	・開設者が講ずべき衛生措置 ・理容所・美容所以外での業務				
3	・立入検査と環境衛生監視員				
4	・期末試験（前期）				
到達目標	理容師・美容師として社会で働くために法制度の知識を身につけ、学内における 期末試験合格レベル（習熟度）と、理容師・美容師資格試験合格レベル（習熟度）を目指す。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	・日本理容美容教育センター指定教科書 ・師法関係法令集・美容師法関係法令集				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	宗像		
科目名	関係法規・制度	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	・理容師法・美容師法について理解する。 ・理容師・美容師として業を行う際に関係のある代表的な12の法律について理解する。				
授業回	学習内容			備 考	
1	・違反者等に対する行政処 ・不利益処分を行う場合の手続き				
2	・理容師法・美容師法の罰則				
3	・理容業・美容業の運営に関する法律 ・理容業・美容業の衛生に関する法律				
4	・理容師法・美容師法の構成 ・理容師法・美容師法の歴史				
5	・期末試験（後期）				
到達目標	理容師・美容師として社会で働くために法制度の知識を身につけ、学内における期末試験合格レベル（習熟度）と、理容師・美容師資格試験合格レベル（習熟度）を目指す。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	・日本理容美容教育センター指定教科書 ・理容師法関係法令集・美容師法関係法令集				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	佐藤		
科目名	衛生管理(公衆衛生・環境衛生)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	環境衛生において知識を幅広く身につけることで理容師として安心、安全、かつ衛生的に施術することができる。国家資格を得る為に必要な公衆衛生の基礎的知識を身につけ、習得することを目的とする。				
授業回	学習内容			備 考	
1	2編 環境衛生 第一章 環境衛生の概要 ①環境衛生の内容 ②環境衛生の目的と意義 ③環境衛生活動				
2	2節 空気環境 ①空気と健康 ②湿度、温度、気流と健康				
3	3節 衣服・住居の衛生 ①衣服の衛生 ②住居の衛生				
4	期末試験（前期）				
到達目標	理容師として必要な公衆衛生及び環境衛生を学び、国家資格を得るにあたって十分に必要な知識を習得している。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	・ 日本理容美容教育センター指定教科書 ・ 配布プリント				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	佐藤		
科目名	衛生管理(公衆衛生・環境衛生)	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	理容師・美容師が理解すべき公衆衛生及び、環境衛生に関する知識を幅広く身につけることで理容師として安心、安全、かつ衛生的に施術することができる。国家資格を得る為に必要な基礎的知識を身につけ、習得することを目的とする。				
授業回	学習内容			備 考	
1	4節 上下水道と廃棄物 ①上水道 ②下水道 ③廃棄物				
2	5節 衛生害虫とネズミ ①衛生害虫 ②ネズミ				
3	6節 環境保健 ①水質汚染				
4	公衆衛生・環境衛生 総合まとめ				
5	期末試験（後期）				
到達目標	理容師として必要な公衆衛生及び環境衛生を学び、国家資格を得るにあたって十分に必要な知識を習得している。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	・日本理容美容教育センター指定教科書 ・配布プリント				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	佐藤		
科目名	衛生管理（感染症）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	感染症経路や具体的な対策と予防に関する知識を幅広く身につけることで、理容師として安心、安全かつ衛生的に施術することができる。 国家資格を得る為に必要な感染症の基礎的知識を身につけ、習得することを目的とする。				
授業回	学習内容			備 考	
1	2節 主な感染症 ①空気・飛沫を介して感染する感染症、②飲食物を介して感染する感染症			プリント	
2	2節 主な感染症 ③血液を介して感染する感染症、④動物・節足動物を介して感染する感染症			プリント	
3	3節 具体的な対策の例 ①標準予防策、②咳のある客への対応、③病変の皮膚をもつ客への対応、④嘔吐をした客への対応			プリント	
4	前期末試験				
到達目標	理容師として必要な感染症に対する知識、予防方法、具体的な対策を学び、国家資格を得るにあたって十分に必要な知識を習得している。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。 なお、所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	日本理容美容教育センター指定教科書				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	佐藤		
科目名	衛生管理（感染症）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	理容師・美容師が理解すべき感染症及び順守すべき具体的な対策と予防方法に関する知識を幅広く身につけることで理容師として安心、安全かつ衛生的に施術することができる。国家資格を得る為に必要な感染症の基礎的知識を身につけ、習得することを目的とする。				
授業回	学習内容			備 考	
1	1章 人と感染症、病原微生物			プリント	
2	1章 感染症の予防 2章 理容・美容と感染症			プリント	
3	2章 主な感染症 (資格試験の出題傾向を踏まえ講義を行なう。)			プリント	
4	2章 具体的な対策の例 (資格試験の出題傾向を踏まえ講義を行なう。)			プリント	
5	後期末試験				
6					
7					
8					
9					
到達目標	理容師として必要な感染症に対する知識、予防方法を学び、具体的な対策を学び、国家資格を得るにあたって十分に必要な知識を習得している。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。 なお、所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	日本理容美容教育センター指定教科書				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	佐藤		
科目名	衛生管理(衛生管理技術)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	・理容師及び理容所におけ実践的な消毒法に関する知識を幅広く身につけることで、理容師として安心、安全かつ衛生的に施術することができる。国家資格を得る為に必要な衛生管理技術の基礎的知識を身につけ、習得することを目的とする。				
授業回	学習内容			備 考	
1	第三章 消毒法実習 各種消毒液 ①消毒薬の概要 ②器具の使い方				
2	第三章 消毒法実習 各種消毒液 ③常備しておくとい消毒薬と希釈液の濃度 ④消毒薬希釈法				
3	第三章 消毒法実習 理容所・美容所の消毒の実際 ①理容所・美容所における消毒の原則、②理容所・美容所の消毒設備				
4	期末試験（前期）				
到達目標	理容師として必要な理容所における衛生管理技術の実例を学び、国家資格を得るにあたって十分に必要な知識を習得している。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	・日本理容美容教育センター指定教科書 ・配布プリント				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	佐藤		
科目名	衛生管理(衛生管理技術)	学 年	2年	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	消毒法の種類や必要な条件、及び理容所における衛生管理技術の実例に関する知識を幅広く身につけることで理容師として安心、安全かつ衛生的に施術することができる。国家資格を得る為に必要な衛生管理技術の基礎的知識を身につけ、習得することを目的とする。				
授業回	学習内容			備 考	
1	衛生管理の実践例 第一章 理容所及び美容所における衛生管理要領				
2	衛生管理の実践例 第一章 理容所及び美容所における衛生管理要領 ①目的～④衛生的取扱いなど				
3	衛生管理の実践例 第一章 理容所及び美容所における衛生管理要領 ⑤消毒～⑥自主的管理体制				
4	衛生管理の実践例 第二章 理・美容所の自主管理点検表				
5	期末試験（後期）				
到達目標	理容師として必要な理容所における衛生管理技術の実例を学び、国家資格を得るにあたって十分に必要な知識を習得している。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	・日本理容美容教育センター指定教科書 ・配布プリント				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	佐藤		
科目名	保健（人体）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	人体の構造及び機能に関する知識を幅広く身につけることで理容師として安心、安全に施術 することができるのに加え、より効率性、効果性を高めることができる。国家資格を得る為に 必要な人体の基礎的知識を身につけ、習得することを目的とする。				
授業回	学習内容			備 考	
1	第7章 呼吸器系 ・呼吸器のあらまし、気道、肺の仕組みとガス交換、呼吸運動				
2	第8章 消化器系① ・消化器系のあらまし、消化管の仕組み、消化管のはたらき				
3	第8章 消化器系② ・消化管と物質代謝、総まとめ				
4	期末試験（前期）				
到達目標	理容師として必要な人体の構造及び機能を学び、国家資格を得るにあたって十分に必要な知識 を習得している。				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験 することができない				
テキスト	『保健』（理容美容教育センター編）、配布プリント（まとめ・練習問題）				

学科	理容科	担当教員	佐藤		
科目名	保健（人体）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	人体の構造及び機能に関する知識を幅広く身につけることで理容師として安心、安全に施術 することができるのに加え、より効率性、効果性を高めることができる。国家資格を得る為に 必要な人体の基礎的知識を身につけ、習得することを目的とする。				
授業回	学習内容			備 考	
1	人体総合まとめ ① ・第1章～3章				
2	人体総合まとめ ② ・第4章～6章				
3	人体総合まとめ ② ・第7章～8章				
4	期末試験（前期）				
到達目標	理容師として必要な人体の構造及び機能を学び、国家資格を得るにあたって十分に必要な知識 を習得している。				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験 することができない				
テキスト	『保健』（理容美容教育センター編）、配布プリント（まとめ・練習問題）				

学科	理容	担当教員	佐藤		
科目名	保健（皮膚）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	皮膚科学に関しての知識を幅広く身につけることで理容師として安心、安全に施術することができるのに加え、より効率性、効果性を高めることができる。国家資格を得る為に必要な皮膚科学の基礎的知識を身につけ、習得することを目的とする。				
授業回	学習内容			備 考	
1	第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健① ・皮膚と全身状態、皮膚と精神、皮膚と栄養、皮膚と好品				
2	第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健② ・皮膚と体内病変、皮膚と水分の脂の状態、皮膚・付属器官とホルモン				
3	第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健③ ・皮膚の保護と手入れ、毛の保護と手入れ、爪の保護と手入れ、子どものおしゃれによる皮膚トラブル				
4	第6章皮膚と皮膚付属器官の疾患① ・皮膚の異常とその種類、皮膚疾患の原因、皮膚疾患の治療法、皮膚炎と湿疹・蕁麻疹・薬疹				
5	第6章皮膚と皮膚付属器官の疾患② ・口唇の疾患、温熱・寒冷による皮膚障害、角化異常による皮膚疾患				
6	第6章皮膚と皮膚付属器官の疾患③ ・色素異常による皮膚疾患、血管腫（アカアザ）、脂腺母斑				
7	第6章皮膚と皮膚付属器官の疾患④ ・下肢静脈瘤、総まとめ				
8	期末試験（前期）				
到達目標	理容師として必要な皮膚科学を知識を学び、国家資格を得るにあたって、十分に必要な知識を習得している。				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	『保健』（理容美容教育センター編）、配布プリント（まとめ・練習問題）				
特記事項					

学科	理容	担当教員	佐藤		
科目名	保健（皮膚）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	皮膚科学に関する知識を幅広く身につけることで理容師として安心、安全に施術することができるのに加え、より効率性、効果性を高めることができる。国家資格を得る為に必要な皮膚科学の基礎的知識を身につけ、習得することを目的とする。				
授業回	学習内容				備 考
1	第6章皮膚と皮膚付属器官の疾患③ ・ 分泌異常による皮膚疾患、化膿菌による皮膚疾患、ウイルスによる皮膚疾患				
2	第6章皮膚と皮膚付属器官の疾患④ ・ 真菌による皮膚疾患、衛生害虫による皮膚疾患、感染症の皮膚疾患の予防、毛と爪の疾患、皮膚の腫瘍				
3	皮膚総まとめ① 第 1 章1項～7項				
4	皮膚総まとめ② 第2章1項～4項、第3章 1 項～3項				
5	皮膚総まとめ③ 第4章1項～11項、第5章 1 項～4項				
6	皮膚総まとめ④ 第5章5項～11項、第6章1項～8項				
7	皮膚総まとめ⑤ 第6章項～ 9 項～19項				
8	期末試験（前期）				
到達目標	理容師として必要な皮膚科学を知識を学び、国家資格を得るにあたって、十分に必要な知識を習得している。				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	『保健』（理容美容教育センター編）、配布プリント（まとめ・練習問題）				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	鈴木		
科目名	香粧品化学	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	理容師として毛髪のみならず薬剤といった香粧品に関しても幅広く知識を身につけることで、安全に安心して施術することができる。国家資格を得る為に必要な香粧品の基礎的知識を身につけ、習得することを目的とする。				
授業回	学習内容				備 考
1	・ 香粧品に用いられる製品安定化剤について (その他の配合成分)				
2	・ 香粧品に用いられる製品安定化剤について (ネイル・まつ毛エクステンション用)				
3	・ 皮膚用基礎香粧品について (皮膚洗浄用香粧品)				
4	・ 皮膚用基礎香粧品について (化粧水)				
5	・ 皮膚用基礎香粧品について (クリーム)				
6	・ 皮膚用基礎香粧品について (その他の基礎香粧品)				
7	・ 皮膚用基礎香粧品について (メイクアップ、芳香製品)				
8	・ 期末試験（前期）				
到達目標	・ 香粧品に関する法律について知ったうえで、施術を可能にする。 ・ 香粧品に配合されている成分に対し配合目的を明確に説明可能にする。 ・ 頭皮・毛髪用の香粧品については、特徴・使用法・関連法規を説明可能にする。				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	・ 日本理容美容教育センター指定教科書 ・ 配布プリント				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	鈴木		
科目名	香粧品化学	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	理容師として毛髪のみならず薬剤といった香粧品に関しても幅広く知識を身につけることで安全に安心して施術することができる。国家資格を得る為に必要な香粧品の基礎的知識を身につけ、習得することを目的とする。				
授業回	学習内容			備 考	
1	・ 皮膚用基礎香粧品について (芳香製品)				
2	・ 染毛剤、パーマ剤を含む頭毛用香粧品の成分、法律や注意事項 (頭皮・毛髪用)				
3	・ 染毛剤、パーマ剤を含む頭毛用香粧品の成分、法律や注意事項 (頭皮・毛髪用)				
4	・ 香粧品の全般の要約① (香粧品取り扱いについて資格試験の出題傾向を踏まえ講義を行なう。)				
5	・ 香粧品の全般の要約② (香粧品取り扱いについて資格試験の出題傾向を踏まえ講義を行なう。)				
6	・ 香粧品の全般の要約③ (香粧品取り扱いについて資格試験の出題傾向を踏まえ講義を行なう。)				
7	・ 香粧品の全般の要約④ (香粧品取り扱いについて資格試験の出題傾向を踏まえ講義を行なう。)				
8	・ 期末試験 (後期)				
到達目標	・ 香粧品に関する法律について知ったうえで、施術を可能にする。 ・ 香粧品に配合されている成分に対し配合目的を明確に説明可能にする。 ・ 頭皮・毛髪用の香粧品については、特徴・使用法・関連法規を説明可能にする。				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数 (全体の2/3) を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	・ 日本理容美容教育センター指定教科書 ・ 配布プリント				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	大草		
科目名	文化論（理容文化論）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	・日本と西洋のヘア、メイク、服装の変遷を学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1	・ファッション文化史 西洋編③				
2	・ファッション文化史 西洋編④				
3	・ファッション文化史 西洋編⑤				
4	・期末試験（前期）				
到達目標	現代までのファッション（髪型・メイク・服装）の変化の変遷を知り、美の成り立ちを理解する。				
評価方法	期末試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間時間（全体の2/3）を下回る学生は、受験することができない。				
テキスト	・日本理容美容教育センター指定教科書				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	古 荘		
科目名	文化論（理容フォト）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	ポートレート写真撮影をベースに、良い写真とはどういうものか（アングル、明度、彩度、フォーカスなど）を学習する。美容写真撮影の工程が理解できるようにする。				
授業回	学習内容				備 考
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ フォト授業の目的について （カメラの取り扱い説明） （機材のセッティングと取り扱い） （スマホ使用での「アングル」学習、一眼レフカメラの扱い方） 				
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一眼レフカメラによる、各種設定と、その効果について （グループでテーマを決めて計画を立てる） 				
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一眼レフによるポートレート撮影実習① （各グループヘアメイク作成・カメラ撮影のレッスン） （背景・場所などの説明） 				
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一眼レフによるポートレート撮影実習③ （それぞれのグループで代表1名をトータルコーディネートし撮影を行なう） ・ 作品は、教室に掲示する 				
到達目標	サロンなどで行っている「作品撮り」をどのように行っているのが理解できるようになる。 また、簡単なものであれば作品撮影が出来る様になる。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	オリジナルテキスト「理容フォト」「理容フォト設定編」使用。				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	大草		
科目名	文化論（理容文化論）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	・日本と西洋のヘア、メイク、服装の変遷を学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1	・ファッション文化史 西洋編⑥				
2	・ファッション文化史 西洋編⑦				
3	・礼装の種類 ・ファッション文化史年表				
4	・期末試験（後期）				
到達目標	現代までのファッション（髪型・メイク・服装）の変化の変遷を知り、美の成り立ちを理解する。				
評価方法	期末試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間時間（全体の2/3）を下回る学生は、受験することができない。				
テキスト	・日本理容美容教育センター指定教科書				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	杉下		
科目名	文化論（ファッション学）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	・ ファッションと理美容の接点を深める。				
授業回	学習内容			備 考	
1	・ アパレル業界の仕組み ・ トrendを知る ～trendの潮流～				
2	・ 70～90年代のファッションの歴史 ・ 2000年～現在のファッションの歴史				
3	・ なぜ、ユニクロはすごいのか ・ ファッションの楽しみ方				
4	・ 期末試験（後期）				
到達目標	学科内の発表会（コレクション発表会）に向け、ファッションのノウハウを感じ、学んで、理美容とファッションの整合性を理解する。				
評価方法	期末試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間時間（全体の2/3）を下回る学生は、受験することができない。				
テキスト	・ 授業毎にプリント（処方）配布				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	畑中		
科目名	運営管理（マーケティング）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	・顧客が評価してくれるサービス＝顧客志向を学ぶ。 ・経営を安定させるために、ブレない価値を示し続ける『一貫性』とその状況を長く持続する『継続性』を学ぶ。				
授業回	学習内容			備 考	
1	・税金について、・税金の申告				
2	・人という資源、・給与、・待遇と福利厚生				
3	・健康安全な職場環境の実現、・社会保険、・キャリアプランの重要性、 ・仕事をする上で感がるべきこと				
4	・顧客が求める価値、・サービスの範囲				
5	・理容業美容業のマーケティング、・マーケティングミックス				
6	・マーケティングミックスの短期的要因と長期的要因				
7	・サービスのシステム化				
8	・期末試験（前期）				
到達目標	経営とは事業を運営し、成果を実現し続けることであり、サービスを提供し、顧客を満足させることで収益を持続的に得ることになる。加えて、人やお金などの経営資源を管理していくことで安定した経営をすることができる。それらの活動を創り出し、維持していくための基礎的知識を学習し、将来のキャリアに活かせるように習得する。				
評価方法	期末試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間時間（全体の2/3）を下回る学生は、受験することができない。				
テキスト	・日本理容美容教育センター指定教科書				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	畑中		
科目名	運営管理（マーケティング）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	・顧客が評価してくれるサービス＝顧客志向を学ぶ。 ・経営を安定させるために、ブレない価値を示し続ける『一貫性』とその状況を長く持続する『継続性』を学ぶ。				
授業回	学習内容			備 考	
1・2	・サービスにおける人の役割、・接客についての理解 ・接客の実践①【受付の役割、顧客の要望を聞く】				
3～5	・接客の実践②【提案、質問、説明、調整】				
6・7	・接客の実践③【謝罪、謝罪する理由、謝罪のポイント、フォローアップ】				
8	・接客におけるトラブルと対応、・接客で発生が予想される問題 ・問題を深刻化されないための対策と対処				
	・期末試験（後期）				
到達目標	経営とは事業を運営し、成果を実現し続けることであり、サービスを提供し、顧客を満足させることで収益を持続的に得ることになる。加えて、人やお金などの経営資源を管理していくことで安定した経営をすることができる。それらの活動を創り出し、維持していくための基礎的知識を学習し、将来のキャリアに活かせるように習得する。				
評価方法	期末試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間時間（全体の2/3）を下回る学生は、受験することができない。				
テキスト	・日本理容美容教育センター指定教科書				
特記事項					

学科	理容科		担当教員	高橋、池田、伊原		
科目名	理容技術理論		学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	演習		必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	90
教育目標・ ねらい	理容技術理論の基礎とともに、技術内容ともあわせて理解することが出来るようにする。					
授業時間数	学習内容					備 考
1～4	ヘアカッティング	(1) スタンダードヘアの概要 (2) スタンダードヘアの用具の持ち方と操作 (3) スタンダードヘアのカット技法				
5・6	パーマメントセット	(1) パーマメントウエービング (2) コールド二浴式パーマメントウエーブの一例 (3) アイアニング				
7・8	ヘアカラーリング	(1) ヘアカラーリング技術のプロセス (2) ヘアカラーリングの一例				
9～12	シェービング	(1) メンズフェイスシェービング (2) メンズネックシェービング (3) グルーミング (4) レディースシェービング				
13・14	理容エステティック	(1) スキンケア (2) フェイシャルケア (3) ハンドケア				
15～17	理容用具	シザース、レザー、クリッパー、コーム、ブラシ、ヘア アイロン、ヘアドライヤー				
18～20	ヘアカッティング	スタンダードヘアのスタイル別カットシステム				
21～29	国家試験対策授業	(1) 理容技術理論 1 (2) 理容技術理論 2				
30	学期末試験	学科試験				
到達目標	理容技術は、人を対象として直接皮膚に触れたり、刃物を使うことから、どの技術も習練が必要であり、何より安全性が必要とされる。そのために技術理論の意義を十分理解し、理容師としての基礎的知識を習得する。					
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない					
テキスト	「理容技術理論 1・2」					
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う					

学科	理容科	担当教員	高橋、池田、伊原		
科目名	理容実習	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	360
教育目標・ ねらい	理容技術理論の基礎とともに、技術内容ともあわせて理解することが出来るようにする。				
授業回	学習内容			備 考	
1～4	マッシュウルフ	ヘアデザインの幅を広げるため、ディスコネクションを随所に取り入れ、カットラインが繋がらないヘアスタイル及びカッティング理論、技術を習得する			24時間
5～7	アップバング スタイル	ツーブロックスタイルを通じてヘアスタイルのデザイン別に合わせたツーセクションラインのカッティング理論及び技術を習得する			18
8～11	クロップスタイル	フェードカット スタイルの特徴である美しい刈り上げの色彩とシルエットを表現できるようになるため、フェードカット理論及びクリッパー操作やスタンダードカット技法の応用技術を習得する。			18
12～18	フォーマルカット	国家試験合格を見据えながらミディアムカットスタイル（試験課題）をデザインするため、必要なヘアカッティング理論とスタンダードヘアカット技術の習得。			44
19～21	ブロースカット	ブロースカットの特徴である美しい調和のとれた短髪(起毛)によるスクエア シルエットを表現できるようになるため、ヘアカッティング理論とスタンダードカット技術及びブローセット理論・技術の習得。			18
22～30	シェービング	シェービングを通じてお客様に快感を与えられるようになるため、シェービング理論と技術及び職業人としてお客様から好感を持たれる接客力の習得。			62
31～34	理容シャンプー	理容シャンプーを通じてお客様に快感を与えられるようになるため、シャンプー理論と技術及び職業人としてお客様から好感を持たれる接客力の習得。			26
35～49	資格試験課題 (ミディアムカット)	国家試験合格レベルのミディアムカットに必要なヘアカッティング理論とスタンダードカット技術(基礎刈り、仕上げ刈り、セニングカット)を実習班で学び合う。			90

授業回	学習内容		備 考
50～58	資格試験課題 (顔面処置)	国家試験合格レベルの顔面処置に必要なシェービング理論と顔面処置技術(ラザーリング、シェービング、スチーミング、乳液塗布及び拭き取り)を実習班で学び合う。	50
59・60	資格試験課題 (整髪)	国家試験合格レベルの整髪及び仕上げに必要なヘアセッティング理論と整髪技術(整髪量塗布、コーミング、ブラシワーク、ブローセット)を実習班で学び合う。	10
到達目標	理容技術は、人を対象として直接皮膚に触れたり、刃物を使うことから、どの技術も習練が必要であり、何より安全性が必要とされる。そのために技術理論の意義を十分理解し、理容師としての基礎的技能を習得する。		
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない		
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」		
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う		

学科	理容科	担当教員	菅野		
科目名	表現技術（英会話）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標 ・ねらい	・ 理容美容サロンでの実践的な状況を想定したボキャブラリーを主体とした学習を行なう ・ シンプルな文型を繰り返し使い、実用的なフレーズの定着を図る ・ アクティビティを通し、実践的かつ英会話の楽しさを学べる演習を実施する				
授業回	学習内容			備 考	
1	Warm Up - 5minutes, Unit 1 - Dates and Times 基本的な挨拶、自己紹介、時間、曜日、日付の 会話表現 ・ Basic Dialogue and Useful Words and Phrases of UNIT 1				
2	Warm Up - 5minutes, Unit 2 - Greeting a client 挨拶からお待ちいただくまでの会話の流れ ・ Basic Dialogue and Useful Words and Phrases of UNIT 2				
3	Warm Up - 5minutes, Unit 4 - Chatting with a client 出身地、天気、趣味等のやりとり Unit 5 - Shampooing シャンプー関連会話 ・ Basic Dialogue and Useful Words and Phrases of UNIT 4 & 5				
4	Warm Up - 5minutes, Unit 6 - Counselling 頭部のボキャブラリ ・お客様のカウンセリング ・ Basic Dialogue and Useful Words and Phrases of UNIT 6				
5	Warm Up - 5minutes, Unit 7 - Cutting 頭部の各部分のボキャブラリ ・ Basic Dialogue and Useful Words and Phrases of UNIT 7				
6	Warm Up - 5minutes, Unit 8 -Perming ・パーマ関連のボキャブラリとダイアログ				
7	Warm Up - 5minutes, Unit 9 - Colouring ・ヘアカラー関連のボキャブラリとダイアログ				
8	期末試験(前期)				
到達目標	理容サロンの現場に立つ実践的な英語を学び、外国人でも遜色のない接客応対ができるようになる。				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	・ English for Beauty Salons				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	菅野		
科目名	表現技術（英会話）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標 ・ねらい	1. 理容美容サロンでの実践的な状況を想定したボキャブラリーを主体とした学習を行う。 2. シンプルな文型を繰り返し使い、実用的なフレーズの定着を図る。 3. アクティビティを通し、実践的かつ英会話の楽しさを学べる演習を実施する。				
授業回	学習内容				備 考
1	Warm Up - 5minutes, Unit 10 - Finishing off ・ヘアブローのボキャブラリとダイアログ				
2	Warm Up - 5minutes, Unit 11 - Advice, Unit 12 - Payment ・男性の顔のボキャブラリ・アドバイス関連のボキャブラリとダイアログ・ 支払時の会話				
3	Warm Up - 5minutes, Review (1) of Unit 1 - Unit 3 ・Unit 1- Unit 3 の復習				
4	Warm Up - 5minutes, Review (1) of Unit 4 - Unit5 ・Unit 4- Unit 5 の復習				
5	Warm Up - 5minutes, Review (2) of Unit 6 - Unit 7 ・Unit 6- Unit 7 の復習				
6	Warm Up - 5minutes, Review (2) of Unit 8 - Unit 9 ・Unit 8- Unit 9 の復習				
7	Warm Up - 5minutes, Review (2) of Unit 10 - Unit 12 ・Unit 10- Unit 12 の復習				
8	期末試験(前期)				
到達目標	理容サロンの現場に立つ実践的な英語を学び、外国人でも遜色のない接客応対ができるようになる。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	English for Beauty Salons				

学科	理容科	担当教員	大草		
科目名	理容美術（デッサン）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	14
教育目標・ ねらい	様々なヘアスタイルやメイクなど理美容技術を駆使して表現する力は、デッサンの画力に大きく関係がある。そのため、基礎的な画法を学んでいく。				
授業回	学習内容				備 考
1	・「ヘアースタイルの描き方」① (鉛筆仕上げ)				
2	・「ヘアースタイルの描き方」② (鉛筆仕上げ)				
3	・「ヘアースタイルの描き方」③ (鉛筆仕上げ)				
4	・「ヘアースタイルの描き方」④ (鉛筆仕上げ)				
5	・「ヘアースタイルの描き方」⑤ (鉛筆仕上げ)				
6	・「ヘアースタイルの描き方」⑥ (鉛筆仕上げ)				
7	・「ヘアースタイルの描き方」⑦ (鉛筆仕上げ)				
到達目標	・基礎的な画法を身につける。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない。				
テキスト	プリント配布				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	大草		
科目名	理容美術（造形学）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	16
教育目標・ ねらい	理容科独自のサロン研究発表会（学生プレゼンテーション）に向けて、作品の一つであるコラージュ制作を行ないます。独自のコンセプトを考え、それを表現します。				
授業回	学習内容			備 考	
1	・『Vivid tone』からの各トーンを配色カードを用いた色の変化				
2	・ A F T 色彩検定 2 級 3 級合格を目指した、色彩調和の理解①				
3	・ A F T 色彩検定 2 級 3 級合格を目指した、色彩調和の理解②				
4	・ A F T 色彩検定 2 級 3 級合格を目指した、色彩調和の理解③				
5	・ コラージュ制作①				
6	・ コラージュ制作② 学生各自のアイデアを雑誌(写真)の切り抜きを用いてデザインする。				
7	・ コラージュ制作③ 学生各自のアイデアを雑誌(写真)の切り抜きを用いてデザインする。				
8	・ コラージュ発表会				
到達目標	独自のコンセプトをイメージ通りに表現できており、加えて、言葉でも適格に表現できること。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない。				
テキスト	プリント配布				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	高橋、池田、井原		
科目名	ビジネスマインド	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	・ 自ら考え、自ら判断し、自ら決定し、自ら行動する資質を学ぶ。				
授業回	学習内容			備 考	
1	・ 自己管理能力（セルフマネジメント）①				
2	・ 自己管理能力（セルフマネジメント）②				
3	・ 時間管理能力（タイムマネジメント）①				
4	・ 時間管理能力（タイムマネジメント）②				
5	・ 成長マインドセット①				
6	・ 成長マインドセット②				
7	・ セルフブランディング（自分づくり）				
8	・ セルフブランディング（新たな価値をつくる）				
到達目標	・ 『自分づくり』＝『独自の価値創造』を考え、発表する。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	・ 授業毎にプリント配布				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	井川		
科目名	ビジネスマインド (情報処理・プレゼンテーション)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	プレゼンテーションツール（パワーポイント）で作成した情報コンテンツを用いて人前で発言・主張・提案・説明ができるスキルを学ぶ。				
授業回	学習内容			備 考	
1	・プレゼンテーション基礎 (プレゼンテーションとは、プレゼンテーションの基本形)				
2	・メディアリテラシー ～情報を読み解く力～ (各種メディアの特性を理解、その情報収集⇔取捨選択と活用方法 について知る)				
3	・プレゼンテーション構成 (シナリオの基本構成)				
4・5	・プレゼンテーションツール (効果的なプレゼンテーションツールの特徴と活用法)				
6・7	・プレゼンテーションツール (視覚資料の効果と活用法)				
8	・プレゼンテーションを実際に行う (視覚資料の使用方法を習熟する)				
到達目標	プレゼンテーションの基本的な知識を身に付け、テーマに基づく情報の収集・整理をすることで、論理的に構成を考えることができる。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	・プリント教材				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	高橋、池田、井原		
科目名	ビジネスマインド	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	・組織におけるリーダーとしての能力開発について考える。 ・理美容業界における新しい時代をリードするリーダーシップとマネジメントスタイルを考察する				
授業回	学習内容			備 考	
1	・リーダーシップ論① (リーダーシップとは、リーダーシップ研究に関する歴史)				
2	・リーダーシップ論② (マネジメントとリーダーシップの違い)				
3	・リーダーシップ論③ (リーダーシップの種類)				
4	・リーダーシップ論④ (組織におけるリーダーシップの役割)				
5	・リーダーシップ論⑤ (サーバントリーダーシップ)				
6・7	・リーダーシップ⑦ (自分の考えるリーダーシップとは)				
8	・発表会				
到達目標	・最近のリーダーシップ論についての専門的知識を獲得する ・独自のリーダーシップ論 (モデル) を構築する				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数 (全体の2/3) を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	・授業毎にプリント配布				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	井川		
科目名	ビジネスマインド (情報処理・プレゼンテーション)	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	・プレゼンテーションツール（パワーポイント）で作成した情報コンテンツを用いて 社会人基礎力として必要なプレゼンテーション能力を習得する。				
授業回	学習内容			備 考	
1	表現テクニック (プレゼンテーションにおける第一印象) (相手に伝わる話し方、姿勢、目線、ジェスチャー)				
2・3	表現テクニック (相手に伝わる話し方、姿勢、目線、ジェスチャー)				
4・5	プレゼンテーション準備				
6	模擬プレゼンテーションの実施				
7	プレゼンテーションの実施				
8	振り返りと情報の共有				
到達目標	プレゼンテーションの基本的な知識と表現技術を身に付け、テーマに基づく情報の収集・整理 をすることで、論理的に構成を考え、ツールを活用したプレゼンテーションができる。				
評価方法	・学生によるプレゼンテーションを実施。 ・内容について学生自身の自己評価を踏まえ、教員が100点満点で評価する。なお、所定授業時 数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	・プリント教材				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	鈴木(徹)		
科目名	ビジネスマインド（簿記）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	将来、店舗の経営に従事する際、財務的視点からの経営管理ができるよう、簿記の基本的な考え方から、損益分岐点分析への応用を理解することを目的とする。				
授業回	学習内容				備 考
1	・ 簿記の基本的な考え方、勘定科目について				
2・3	・ 財務三表 (貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の概要)				
4	・ 収益構造 (店舗経営における、財務的視点)				
5	・ 損益分岐点 (損益分岐点及び不随する事項における店舗経営の実例)				
6	・ 売上・経費・収支計算 (チームごとに店舗経営のシュミレーション資料作成)				
7	・ 売上、経費、収支計算 (チームごとに店舗経営のシュミレーション資料作成)				
8	期末試験				
到達目標	簿記の基礎的・基本的内容の習熟を図る。				
評価方法	期末筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	・ 授業毎にプリント配布				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	立花		
科目名	高度総合美容技術理論(毛髪化学)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	サロン実務において必要な知識の習得				
授業回	学習内容				備 考
1	化粧品の正しい理解	医薬品医療機器等法について学び、化粧品の定義を正しく理解する。			
2	シャンプーとトリートメントのリサーチ	現在、販売されているシャンプーやトリートメントのコンセプト、特徴、ターゲット層などを通してマーケティングを学ぶ。			
3	シャンプー成分の理解	実際にサロンや各家庭で使用しているシャンプーの成分の効果、効能、特徴などを学び、ニーズに合わせたシャンプーの提案力の修得。			
4	シャンプー作り	シャンプーの知識を用いて、コンセプト、ターゲット、内容成分などを決め、パッケージデザインを含め作成する。			
到達目標	理容技術の基礎をとなる理論の復習をし、就職後の実務において必要な知識を身につける				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	ヘアケアマイスターブック				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は20年以上の化粧品製造会社での実務歴を有し、サロンスタッフ(特にインターン)が施術する際に極めて重要な毛髪に関する実践的知識を伝える				

学科	理容科	担当教員	高橋、池田、伊原		
科目名	高度総合理容技術実習 (スタイリストコース)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	選択必修	授業時間 (単位)	180
教育目標・ ねらい	理容技術の基礎的知識、技能を身につけ、ビューティークリエイターとして必要な応用する力と想像力を高める。				
授業回	学習内容				備 考
1～5	ブロースカット	ブロースカットの特徴である美しい調和のとれた短髪（起毛）によるスクエアシルエットを表現できるようになるため、ヘアカッティング理論とスタンダードカット技術並びにブローセット理論および技術を習得する。			30時間
6	トレンドカット	ヘアスタイルにおけるトレンドポジションを理解し、そのイメージに合わせたヘアスタイルをデザインするためにアウトラインやテクスチャー、ディテールカットの理論及び技術を習得する。			8
7・8	レイヤーカット	レイヤーカットによる毛先の動きや毛流れなどの質感をコントロールできるようになる為に、ヘアカッティング理論・技術ならびにブローセット理論・技術を習得する。			15
8・9	3セクションカット	理想とするフォルムに仕上げていくために必要なカットアングルとパネルコントロールの理論および技術を習得する			15
10～14	デザインの読み解き	目的のヘアスタイルを作成するため、ヘアスタイルが持つ特徴やデザインを読み解く。実習班で協働し、一つのカッティングプロセスを組み立てプレゼンする。そのカッティングプロセスでヘアスタイルを作成し検証する。より良いカッティングプロセスを同じ班の中で学び合い構築する。			28
15～18	ヘアカラーリング	染毛する毛髪の長さや部位に合わせた実践的なヘアカラーリングの理論および技術の習得。			20
19～26	トレンド発表会	今まで学んできた知識を活かし、予め設定されたテーマに沿い、ヘアスタイルだけでなく流行のファッションを取り入れた今年の秋冬に流行るトレンドをトータルコーディネートして発表する。			40
27	来客実習	教員による施術（シャンプー、マッサージ、シェービング、ブロー）のサポートを行い、お客様からの信頼を得るプロセスを実践的に経験する。			6

授業回	学習内容		備 考
28	高度カラーリング実習	お客様の要望に合わせたヘアカラーを施術するための実践的なヘアカラーリングの理論および技術の習得。	6時間
29	高度パーマ実習	お客様の要望に合わせたパーマスタイルを施術するための実践的なパーマウェーブの理論および技術の習得。	6
30	高度理論	お客様にヘアカラーリングやパーマウェーブを施術していくためには、薬剤の知識及び技術に基づいた安全性が必要となる。そのために高度理論の意義を十分理解することが重要。	6
到達目標	ヘアスタイルを立体的に観測し、ヘアデザインの構造と技法を読み解く能力を活かし、ヘアスタイルをカタチにする技術を習得する。		
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない		
テキスト	「理容技術理論 1・2」「技術テキスト」		
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、基礎技術をさらにブラッシュアップした創造的なスタイル作成の指導を行う		

学科	理容科		担当教員	高橋、池田、伊原	
科目名	高度総合理容技術実習 (リラクゼーションコース)		学 年	2	実施時期 前期
授業形態	実習		必修・選択 の別	選択必修	授業時間 (単位) 180
教育目標・ ねらい	理容技術の基礎的知識、技能を身につけ、ビューティークリエイターとして必要な応用する力 と想像力を高める。				
授業回	学習内容				備 考
1～21	フェイシャルエステ	Ajesthe認定フェイシャルエステティシャン合格を目指 し、エステティック理論・フェイシャルエステティックの 基礎知識と技術を習得する。			126時間
22～25	メイク	メイクによってお客様の美しさをより引き出すために、骨 格や肌の色、バランスに合わせたナチュラルメイクが表現 できるよう、フェイスプロポーション・ベースメイク・ポ イントメイクの技術を習得する。			26
26・27	来客実習	教員による施術（シャンプー,マッサージ,シェービング,ブ ロー）のサポートを行い、お客様からの信頼を得るプロセ スを実践的に経験する。			6
28	高度カラーリング実習	お客様の要望に合わせたヘアカラーを施術するための実践 的なヘアカラーリングの理論および技術の習得。			8
29	高度パーマ実習	お客様の要望に合わせたパーマスタイルを施術するための 実践的なパーマメントウェーブの理論および技術の習得。			8
30	高度理論	お客様に対しヘアカラーリングやパーマメントウェーブを 施術していくためには、薬剤の知識及び技術をはじめ、安 全性が必要とされる。そのために高度理論の意義を十分理 解し、理容師としての応用的知識・技能を習得する。			6
到達目標	肌質やスキントラブルを分析し、シエステ(=シェービングエステ)を駆使しながらモデルの肌を 美しくする技能を身につける。また、ネイルやメイクなども加えることにより、トータル ビューティーまで発展させた立案力・提案力を身につけている。				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することが できない				
テキスト	「理容技術理論 1・2」「技術テキスト」				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、基礎技術を さらにブラッシュアップした創造的なスタイル作成の指導を行う				